

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

無料

第45号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)2月16日 火曜日

2016年(平成28年)2月16日 火曜日

民間による大復興企画 被災地にバーチャル村建設

復興大失速、人口減少継続、孤立感増大、
6年目以降の閉そく拡大可能性を打破しよう

復興大減速の予感 孤立感も深まる

今年あたりから、東北大震災関連の復興予算が削減されるようだ。加えて、被災地自治体の負担も求められている。
また、復興ボランティアもこの五年間で大きく減少した。
「災害ボランティアセンターで受け付けたボランティア活動者数の推移」によれば、岩手・宮城・福島三県で平成二十三年は約九十六万人、平成二十七年は六万人に満たず、ピーク時の六%ほどに大減少した。人口も、もともとの過疎化による減少に加え、震災

の影響で減少が続いている。また国内の他地域では、外国人観光客にぎわっているが、東北だけが唯一減少している。
こうした状況下でも、画期的な復興打開策は現れて来ない。この先、東北被災地はいつたいていどうなるのか。

最近はやりの バーチャル村設立

悲観的な予測から一転し、最近頻りに耳にする『バーチャル村』を考えてみよう。筆者も専門家ではないので、偉そうには言えないが、インターネットが普及した現代にあつて、その仕組みとしてはそんなにむずかしいものではないと思う。
まず、バーチャルな『村民』となつて、バーチャルコミュニティを作り、バーチャル空間の中でさまざまな活動を開始する。

『村民』になるための制限はほとんどなく、自由になれる。『村』によつては、小額の『村民』の負担金がある場合もある。その後、バーチャルからリアルの世界に降りてきて、『リアルな村』に定期的、不定期に集まり、集団活動を行うケースもあり、そうした活動を伴わないケースもある。
また、そこに付帯するサービスがいろいろあつて、地域の特色も活かして、それぞれの『村』がその独自性を発揮しているというこ

とであろう。
『バーチャル村』とは名ばかりで、地元の特産品を使ったネット販売主体のものもある。

村民は国内にも海外にもいる、動物もいる

こうした『バーチャル村』は、国内にも、海外にもいくつも存在する。国内の例では、高知県の過疎地である本川村が設立した『バーチャル本川村』がある。このキヤッチコピは以下の通り。
一度、むらに住んでみたい。田舎暮らしにあこがれる人から単に清らかな川の近くに住んでみたいと思つている人まで、そのことを可能にするのが、バーチャル村民です。あなたの現在の場所に居ながら、『村』を持つことができます。

『村民』になると、村の情報や産品が入手でき、泊まりに行ける。リアルな村民と交流して、村の復興を考えるのである。
『村民』は日本全国から、も外国からも集まり、動物までいる。
『バーチャル村』は東北にもある。秋田県五城目町の「シェアビレッジ」。

「シェアビレッジ」とは、保全する古民家を村に見立てることから名づけた。すでに二百名の『村民』が宿泊した。八月には「一揆」と呼ぶ夏祭りも開催し、四百名の『村民』が参加した。

被災地にはなぜ『バーチャル村』がない？

ところで、東北大震災の被災地にはなぜこうした『バーチャル村』がないのだろうか。あまり聞かない『バーチャル村』の『村民』となつて、被災地を支援、応援したい人はたくさんいるはずであり、こうした企画は奇抜なものとは思えないのであるが、とても不思議である。
おそらくは、被災地や被災者の尋常ならざる被災の状況と傷心に気を使うあまり、言い出せず、また提案できず、遠慮しているせいだろうか。

そうであれば、被災地と被災者になり代わつて、無用な遠慮は必要ないと思つておこう。この三月で満五年となる被災地にとってはむしろ大歓迎であろう。ただでさえ、被災地は注目度も一挙に下降して、孤立感を深めている。これまでのような国や地方自治体の支援はますます削減され、自助努力が求められるという

その点で『バーチャル村』は民間資金で出来る。手かせ、足かせでがんばらめになるような、国の力や資金をあてにしなければならぬ企画ではない。

移住や半移住にこだわらないバーチャル移住

筆者も、東北の復興のために何かできないかと、東北取材中にいろいろな方とお話したことがあるが、そのときによく耳にしたのが、本気で復興に取り組んでくれるつもりがあるなら、被災地に根を張つてやつてもいいんじゃないか。つまりは引越して来いと言われた。いっしょにやつていこうという前向きな発言なのだろうが、言われた方は驚いてしまう。東京での暮らしや仕事など、何もかも捨てて、移住せよということであるからである。

移住しなくても、これだけ交通機関が発達した現代日本ならば、やりたいことはほとんどが可能である。それに全面移住はハードルが高すぎる。
こうした発言は被災地から発信してはならないと思う。支援者や応援者に過重な負担を強いる結果となり、逆効果であり、むしろ支援者や応援者を遠ざける結果になりかねない。
半移住なら可能性が高いかもしれないが、それでも生活のすべてを変える必要がある。

被災地、被災者も、発想の大転換が必要だと思う。バーチャル移住ならこうした課題をクリアできる。しかも、ただの通りすがりではなく、ちゃんと『村民』でもあるのだ。この考え方を積極的に導入しない手はない。

ないないづくしからの大逆転発想

被災地の今後を考えると、資金がない、人がいない、アイデアがない、外から人が来てくれない、ボランティアにも来てくれないなど、ないないづくしである。要は、発想の大転換である。被災地も被災者も発想を転換する。支援する側も発想を転換する。
今後はこうした発想の転換が不可欠である。そうしない結果はだれにでも予測できる。

被災地、被災者も、発想の大転換が必要だと思う。バーチャル移住ならこうした課題をクリアできる。しかも、ただの通りすがりではなく、ちゃんと『村民』でもあるのだ。この考え方を積極的に導入しない手はない。

ないないづくしである。ないものに拘泥して嘆くより、あるものを掘り起こすのが効果的である。資金不足、人材不足、企画不足、ボランティア不足などは、この『バーチャル村』構想でカバーできるのではないだろうか。

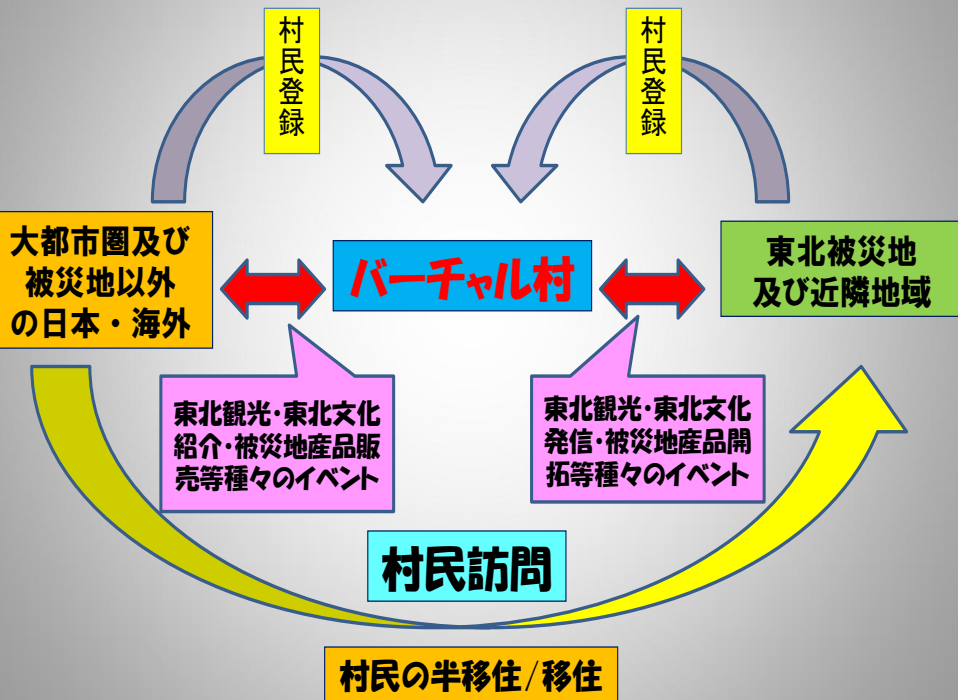
来たれ！よそ者、若者、バカ者 新企画と共に

大震災発生直後から言われてきたことだが、あらためて言おう。
来たれ！よそ者、若者、バカ者よ、新たな『バーチャル村』へ。
被災地からも、被災地の近隣地域からも、大都市圏からも、その他の日本国内からも、海外からも、来たれ！
東北観光・東北文化発信・被災地産品開拓等種々のイベントと共に！

被災地、被災者も、発想の大転換が必要だと思う。バーチャル移住ならこうした課題をクリアできる。しかも、ただの通りすがりではなく、ちゃんと『村民』でもあるのだ。この考え方を積極的に導入しない手はない。

被災地に作る『バーチャル村』イメージ

東北被災地に設立可能なバーチャル村の構造



大学生が卒論で取り上げた 被災地の幽霊の話 けっしてタブーではない 切なくて、悲しい話である

被災地に幽霊出現という話はタブーなのか？

東北大震災発生直後から被災地には、犠牲となった方々の「幽霊」が出現するという多くの噂を耳にした。

そのなかには、幽霊が出現したという話を聞きつけたたくさんの遺族が、我が家族・親族の幽霊ではないかと、いつせいに幽霊に会い、幽霊が出現したという場所に押しかけたという話もあった。

こうした話はとても切ない話である。大震災により、家族や親族の突然の死に直面した遺族は、犠牲者たちとのいきなりの「遮断」に途方に暮れ、またはご遺体が見つからず、生死さえ不明という状況下で、もし死んでいるなら、幽霊でもいいから話をしたい、ひと目でも会いたいという思いがあつたのは当然である。

日本人の心性として、とてもよく理解できるのだ。一方で、これを気軽に話せない雰囲気もあった。

頭からそうした話がデマだと決めつける人もあつた。あるいは、犠牲になつた方々に対して、そうした話をすることが不謹慎であるという人もいた。

結果、何となく言い出しにくい雰囲気を出して、筆者は、幽霊の話をするのが、犠牲者に対して不謹慎とも思われない、そうした話はとても切なくて、悲しい話ではあるが、話してはいけないとは思つたことはない。

ようやく幽霊の話を 取り上げた大学生たち

大震災から約五年を経過し、そうした空気が次第に薄れてきたせいか、被災地の幽霊の話が話題となつていく。きっかけは一月二十日の朝日新聞の記事である。

この記事によれば、この三月に卒業する東北学院大学の社会学のゼミ生たちがフールドワークを重ねて、震災による死に人々はどう向き合ひ、感じてきたかについて卒論を書いた。

なかでも、最大の犠牲者を出した宮城県石巻市のタクシー運転手たちが体験した「幽霊現象」をテーマに選んだという。

「幽霊現象」の話

以下に、「幽霊現象」の話をつたつ紹介する。

(朝日新聞記事より抜粋)
50代の運転手は工藤さん

に、こう打ち明けた。

震災後の初夏。季節外れのコート姿の女性が、石巻駅近くで乗り込み「南浜まで」と告げた。「あそこはほとんど更地ですが構いませんか」と尋ねると、「私は死んだのですか」と震える声で答えた。驚いて後部座席に目を向けると、誰も座っていなかった。

別の40代の運転手。やはり8月なのに厚手のコートを着た、20代の男性客だった。バックミラーを見ると、まっすぐ前を指さしている。繰り返し行き先を聞くと「日和山」とひと言。到着した時には、もう姿はなかった。

工藤さん(前出の大学生:筆者注)は3年生の1年間、毎週石巻に通い、客待ちの運転手をつかまえては「震災後、気になる経験はないか」と尋ねた。

100人以上に質問したが、多くの人は取り合わなかったり、怒り出したりした。それでも7人が、不思議な体験を語ってくれたという。

単なる「思い込み」「気のせい」とは言えないリアリティがある。誰かを乗せれば必ず「実車」にメーターを切り替え、記録が残るからだ。幽霊は無賃乗車扱いになり、運転手が代金を弁償する。出来事を記した日記や、「不足金あり」と書かれた運転日報を見せ

てくれた人もいた。乗せたのはいずれも比較的若い男女。もし犠牲者の

霊魂だとしたら――。「若い人は、大切な誰かに対する無念の思いが強い。やりきれない気持ちを伝えたくて、個室空間のタクシーを媒体に選んだのでは」と、工藤さんは考える。

(2016年1月27日「マガジン9 雨宮処凛がゆく!」より一部転載)

(略) 私自身、東北の被災地に通ひ、ボランティアをしていた人から、似たような話は多く聞いていた。

例えば夜、海の近くの道を、津波などで身内を亡くした人を乗せて車で走っている時、「あつ」と声を上げる場所があるのだという。

「お母さん!」「一郎!」「お爺ちゃん!」。遺族たちは窓の外の一隅を見つめてそれぞれ声を上げ、口々に「あそこあそこ、ほらあそこにいる!」「わかるわかる!」などと叫び始める。

が、同乗している「遺族」たちには見えていないもの、ボランティアの彼には何も見えない。しかし、みんなに言われるまま車を止める時、一斉に名前を呼びながら車から走り出すのだという。その場所では、何度かそういうことがあつたそうだが「本当に、彼らにははっきり見えてるんですよ」

前回号では『遠野物語第99話』を創作能にして、犠牲者と残された者たちとの対話の機会にすべきと書いた。そうしたことにつながる話である。

宮城県側と「持続可能な

宮城・雄勝に9.7mの防潮堤？

暮らしにくくなるのになぜ建設するのか
再び岩手・田老町の教訓に学べ!

雄勝をつくる住民の会」の話し合いが持たれたが、景観を破壊すると建設に反対する住民に対し、道路や再建された水産加工場など、保全すべき施設があると主張する県側の主張は平行線のまま。

地元の市役所も、巨大な壁のような防潮堤を望んだわけではなかったようだ。石巻市雄勝総合支所は震災の年、住民団体の議論もふまへ、海沿いを走る県道や国道を20メートルの高さまで移し、道沿いに山を切り拓いて住宅地をつくる復興案をまとめた。それなら防潮堤は、元の4メートル程度に復旧すればいい。

ところが県は、数十年から百数十年に一度の津波に対応する「L(レベル)1」の高さにこだわった。結果、道路移転は必要なく、費用もかかるとの考えが示され、9.7メートル防潮堤計画が動き出したという。

このまま県側が押し切れれば、2018年春の完成を目標に、年度内の防潮堤着工をめざすようだ。

ゴーストタウンの可能性

県側にもさまざまな事情があるのだから、結果として出てきた案は奇妙奇天烈と言わざるを得ない。過去の教訓にも学ばず、数年後までには住民が流出してしまう可能性まで秘めている。

金をかけ、労力をかけ、要塞のような防潮堤に守られたゴーストタウンを産み出すのかもしれない。

筆者としては、県側の主張にあるような、数十年から百数十年に一度の津波に対応する「L(レベル)1」の高さでは不十分であり、いつそのこと、この町全体を強固なドームで覆えば津波からの安全は守れると皮肉りたくなる。

田老町の十メートルの防潮堤決壊までの歴史

この雄勝町のケースを客観的に評価するのに、岩手県田老町の悲劇的な歴史に学ぶのは意義がある。

田老町は、岩手県下閉伊郡にある町である。リアス式海岸の湾の奥に位置し、過去に幾度も津波の被害を受けているため、総延長2.6キロメートルにも及ぶ高さ10mの防潮堤を建設するなど、津波に対して強い街づくりを進めていたが、あの震災ではその防潮堤を越える津波が発生し、多くの被害が出た。

この町の津波災害の主なものを挙げてみる。まずは1897年(明治29年)5月15日の明治三陸津波である。この津波によって、田老町は、町のほとんどの家屋を失った。次は、1933年(昭和8年)の昭和三陸津波。この津波による田老村の被害は、559戸中500戸が



大震災前の田老町の防潮堤

流失し、死亡・行方不明者数は人口2773人中911人(32%)、一家全滅66戸と、三陸沿岸の村々の中で死者数、死亡率とも最悪であった。

そうした悲惨な経験から、田老町は世界一の堤防を作った。

長さは2.6キロメートル、高さ10メートルの防潮堤は、日本にある「万里の長城」とまで言われて、国内外から絶賛されていた。建設に45年を要して完成させた町自慢の防潮堤であった。「防災の町」とも言われていた。



牡蠣のバターソテー



今回の地酒ラインアップ

第17回 三陸酒海鮮会の渋谷開催(1/16)
 年明け第一回目の開催
 地酒もおいしい、タラの白子鍋に刺身、牡蠣のバターソテーと盛り沢山

年明け第一回目の三陸酒海鮮会は渋谷からスタート。まずは、この季節にはやはり牡蠣。趣向を凝らして牡蠣のバターソテーときました。うまかった。次は、タラの白子鍋。写真で分かるように食べきれないほどのボリューム。これで四人前。最後はオシヤ



タラの白子鍋



刺身：アワビ、平目、カレイ、タラ、ホタテ、イカ、ゲソ

にしていただきました。刺身もすごかった。平目、アワビ、カレイ、タラ、ホタテ、イカ、ゲソというラインアップ。これを普通のお店で頼んだら：と思うと、この会のサービスの程が理解できる。特に、アワビは絶品、カレイは厚みがすごいし、タラ

の刺身などめったにいただけないだろう。お酒の方も飲み放題で全部いたどうと思っただが、食べる方も忙しく、全部は飲みきれなかった。残念。ぜひたくさんの方の参加を！



ルイベの麴漬け(出来上がり3日目)

第18回 水産業再興のための料理レシピ紹介

【ルイベの麴漬け】

アツアツご飯に載せていただくもよし！きっと何杯もおかわりすることでしょう。

酒の肴にするもよし！まちがいなくお酒がどんどんすすんでしまいそう。



郷土料理愛好家
松本由美子氏

一簡単レシピ

『材料』 ルイベ 200g 醤油麴 20g 塩麴 20g きざみ昆布 少々

『作り方』 (1) ルイベを切ったら、醤油麴に漬けます。
 (2) 2日目に塩麴に漬けます。

きざみ昆布を入れ、鷹のツメを少々、好みで入れて混ぜるだけの簡単な仕上がりです。1週間するともっと、とろみが出て、まろやかに美味しくなります。写真は3日目の状態です。熱々ご飯にのせて、麴の旨味がからまりオツな味が得られると思います。

東北の来し方 行く末を ウェールズに学ぶ

4つの国からなる「イギリス」

我々が「イギリス」と呼ぶ国は、正式にはグレートブリテン及び北アイルランド連合王国と言う。連合王国という通り、ロンドンを抱えるイングランドの他にスコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4か国で構成される国である。サッカーやラグビーのワ

ルドカップなどではこれら4か国が別々に出場するので、ユニオンジャックとは異なるそれぞれの国の国旗を見る機会も多い。よく東京の一極集中が指摘される日本から見ると、「イギリス」を構成する4

か国はそれぞれが一つの国という点で日本よりもはるかに分権が進んでいるように見える。実際、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドには議会が設置され、制限はあるものの立法権を持つている。

国内で地方分権の拡大、地方自治の拡大を推進しようとする人々の中にはスコットランドの取り組みが目撃されることも多い。2014年のスコットランド独立住民投票は世界的にも大きな注目を集めたが、分離独立までは考えていなくても、スコットランドにおける自治権拡大に向けた動きは、わが国で中央集権国家から地方分権国家へ移行させようとする、主に地方にいる人たちにとても参考になるものと映る。実際、北海

道などは平成15年にスコットランドを視察し、その結果を「スコットランドの分権改革に関する調査研究報告書」という詳細な報告書にまとめている。

東北はスコットランドではなくウェールズ

さて、私には東北の主だった都市、それは県庁所在地に限らず地方都市も含むが、だいたいよく行く飲み屋がある。大抵は美味しいビールが飲める店、それらは拙ブログでも紹介しているが、先日山形市の行きつけの店の一つで飲んでいたところ、かつてその店で意気投合した佐藤明氏と数年ぶりに再会した。佐藤氏は、好きなアーチストがたくさんいるという理由から、ウェールズに造詣が深かった。

その佐藤氏が言うには、「東北はスコットランドではなくウェールズではないか」ということであった。独立を求める住民投票を実施するようなあのスコットランドの押し出しの強さは、我が国東北ではなく、むしろ関西に通ずるのではないかと、とも言った。なるほど、確かに、世間の注目を集め、一気呵成に物事を進めていく様子は、前・大阪市長の橋下徹氏のイメージとも重なる気がする。

ただ、正直なところ、私はウェールズについて明確なイメージを持ち合わせていなかった。せいぜい首都がカーディフであることとイギリス皇太子が「プリンス・オブ・ウェールズ」と称されることと、あとはアーサー王伝説くらいである。しかし、考えようによつては、そのように、世界の耳目を集めるスコットランドと比べても明確なイメージがあまり湧かない慎まじやかなウェールズは、何か我々が東北に通じるものがあるようにも思える。

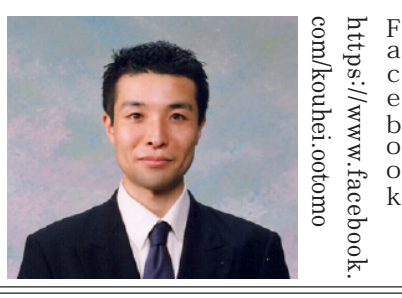
ウェールズと東北に共通するもの

そこで遅まきながらウェールズについて調べてみた。調べてみると、東北と共通するような事柄がいくつかあることに気づく。国土の面積は20716㎦で、日本と言うと四国4県に東京都と合わせたほどの大きさである。人口は2011年の統計で約306万人である。その年のイギリス全体の人口は約6318万人なので、ウェールズの人口はその約48%でそれほど多くないわけである。

ちなみに、2015年現在の東北六県の人口は約897万人で、日本全体の人口は1億2688万人であるから、東北人の占める割合は約7.1%である。まあウェールズも東北もどちらも「少数民族」ではある。東北人から見ても共感できるのはそのルーツである。ウェールズ人のルーツは、ノルマン人やサクソン人が侵略してくる前からブリテン島に住んでいたケルト系のブリトン人である。ウェールズは古代から度々ブリトン人の後にブリテン島に渡ってきたノルマン人やサクソン人の侵略を受けてきた。ウェールズはその都度強硬に抵抗し続けた。ウェールズに侵襲してきたサクソン人を撃退したというブリトン人の王、アーサー王は、東北で言えば蝦夷のリーダーだった阿豆流(アテルイ)が安倍貞任に比せられるかもしれない。

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagnashi/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.otoimo

あり、自然物のなかに靈魂が宿ることや輪廻転生があることなどが信じられていたという。この辺りは万物に神が宿るといふ日本の神道や、因果応報によって輪廻転生があるという仏教の思想に近いものが感じられる。

言葉に関して最も親近感を覚えたのはそもそも「ウェールズ」という言葉である。「ウェールズ」とは、ウェールズを征服したサクソン人の言葉「ウエリリス」が元で、その意味は「よそ者」だそうである。ここはまさに大和朝廷に「蝦夷」と呼ばれ蔑まれた東北にそっくりである。ちなみに、ウェールズ語ではウェールズのことを「カムリ」と言うそう、これは「同胞・仲間」という意味だそうである。

もう一つ、ウェールズでは古代から「ウォルシュ・ゴールド」と称される金が産出した。今では底をついてしまったそうだが、今もあるウォルシュ・ゴールドはブラチナよりも希少価値が高いとされているそうである。これも古代中世における一大産金地であった東北と共通する点である。

先に触れたように、今の東北地方に住む人はかつて蝦夷と呼ばれた。よく議論されることに、蝦夷はアイヌ民族と同じか否かという

ものがある。それについての結論はまだ出ていないが個人的には、イコールではないものの、蝦夷の中には後にアイヌ民族と呼ばれることになる一群もいたのだろうと思う。しかし、それだけでなく、いわゆる大和民族もいたはずである。稲作の遺跡が東北の北端、青森県内でも見つかったことから、渡来系の弥生人が東北まで北上して定住していたことは疑い得ない。一方で、アイヌ語で説明できる地名が東北には数多く残っていることから、アイヌ民族と民族がいたか、あるいはアイヌ民族そのものが南下してきたかして、そうした一族がいたことも確実である。要は、そうした多様な民族が当時の東北にはいて、それらの人が後に朝廷から征服する対象として十把一絡げに蝦夷と呼ばれたというのが真相ではないか、かつたかと思うのである。すなわち、蝦夷という言葉はある特定の民族のことを指すのではない。まさに、東北に住み、東北の間であることを自覚する人が蝦夷なのである。この辺り、ウェールズに進出してきたイングランド人さえもウェールズ人化させていったというウェールズとも通ずるものがあるように思う。

東北に住む者みな蝦夷

戦乱に明け暮れた、そしてそれはほとんどすべて外から攻められたことによる戦乱だが、そうした東北に百年の平和をもたらした奥州

藤原氏は、元をたどれば京の摂関家の藤原氏に連なる一族である。だが、その初代清衡は自らを、本紙第41号でも紹介したが、中尊寺供養願文の中で「東夷の遠首」(東の果ての蝦夷集団を束ねる遠い昔からの酋長の家柄に属する者)、「俘囚の上頭」(朝廷に服属する蝦夷集団の頭領)と称した。奥州藤原氏の全盛期を築いた三代秀衡さえも、京の摂関家藤原氏の九条兼実から「奥州の夷狄(未開の蛮人)」と呼ばれている。自他ともに認める蝦夷だったわけである。

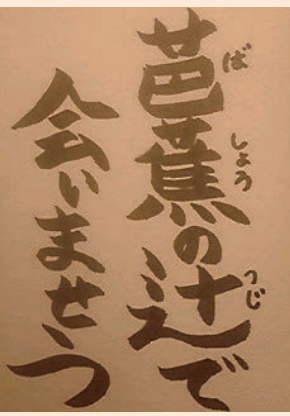
蝦夷の末裔であることを誇りに思おう

沖縄の人は自分たちのことを「うちなーんちゅ」、九州以北の人のことを「やまとんちゅ」と呼ぶが、「やまとんちゅ」とは「大和人」ということなので、住む人がその大和人に蝦夷と呼ばれた地である東北にいる身からすると、「やまとんちゅ」と言われることにはちよつと違和感を覚えたりする。この辺りは、ウェールズ人が自らをイングランド人とは全く別と考えられていることに少し通ずるところがあるかもしれない。

思えば、奥州藤原氏はそうした「やまとんちゅ」に対する蝦夷からの強烈な自己主張だった。中尊寺供養願文の「東夷の遠首」、「俘囚の上頭」という言葉、こ

れは従来、清衡が自分の立場を卑下して「中央」の天皇家、摂関家を立てるためのへりくだった表現だと言われてきたけれども、実はそうではなかったのではないかと思う。清衡は誇りを誇つて自らのことを「東夷の遠首」、「俘囚の上頭」と称していたのではないかと思うのである。清衡はここで自分を、朝廷の支配する地域とは異なる国のリーダーであることを高らかに宣言したのではないだろうか。これまた第41号で書いたが、奥州藤原氏は、天皇家の祭神の伊勢、摂関家藤原氏の祭神の春日、鎮護国家の軍神で源氏の祭神の八幡、蝦夷征伐の神の鹿島・香取などは一切平泉に入れなかった。奥州藤原氏は摂関家藤原氏に連なるその立場よりも、蝦夷のリーダーとしての立場を取つたのである。そうそう、蝦夷とは元々は強い者、荒ぶる者を指し、それがやがて朝廷に従わぬ文化の文化とは異なる文化を持つ者を指すようになったという説がある。とすれば、それはむしろ東北に住む人間にとつては褒め言葉とも言えるのではないだろうか。その蝦夷の末裔であることを、今東北に住む一人として誇りに思いたい。過去を受け継ぐ者が今どうあるか、ウェールズには今後さらに学びたいものである。

連載
むかしばなし



第三十三話
六つめの石

言葉にすると、そんなところだろうか。人間もまたかつては共に海へ帰ろうとした同志だった。だが結局地上に踏みとどまり、宇宙への切符を手放したのだ。善助に届いた、鯨からの情報はそこまでだった。夜の監視員が居眠りから覚め、白い鯨を発見したと騒ぎ出したのだ。結局、鯨が何を言いたかったのかは、それっきりでわしは帰港し、仙臺へ戻りました。」

「南の向山には昨夜にわしが置き、西の青葉山に芭蕉さん達が置けたかどうかというところ。わしは、果たされたと思ひますが。」

「さようか。では、しばし待つてはくれぬか。」

善助は、答に詰まった。「何故ですか。」

「今、何処かへ埋めても、一時的に掘り返す事になる。わが弟の張った別の結界を、頼朝を迎える為に使わねばならぬのでな。」

忠衡が塩竈社から太白山にかけて張った、馬返しの際。それよりは、柿の樹の到着を待とう。彼はこの丘の主。石の最適の居場所を示してくれよう。」

若は無事、榴ヶ岡へ送り届けてもらえるのか？そして異世界で巨大シヤコに乗ったあの二人の行った先は宇宙か童宮城か！



「次回予告」

「あれ、若く凛とした女性の声が重なった。しかしすぐ、驚いたように素つ頓狂な声色へ変わる。」

「ああ、違う！この子がおしゃまのじゃない。一緒にいるのが山姫さんだも」

「視界は、真つ暗闇だった。しかし周囲に強い気配を感じ、くすくす笑いのような奇声が絶え間なく響いて、その声の主が耳の近くまで顔を押し付け、くんくんとこちらの臭いを確認するよ

うな様子すらある。」

「それならおしゃまどころじゃなし！私らを植えた、大長老もいところだあ。」

「山姫様に護られているとは、こりゃ口者じゃないね！あたしらあ、とんだ無礼な通せんぼじゃないかね？」

高衡の言った通り、全員で三人の女性の存在を感じた。六尺の背丈がある父・喜善よりも、ずっと高いところ

に彼女らの頭頂があるのがわかる。」

「あ、私、若と申します。道案内をお願いしたいのですが。」

アンパンヌを起こそうというチャンネルラは、差し詰めそのような能力を持つ役回りなのかも知れない。」

「けれど、一旦新女王が目覚めればどうなるか。女王の力というのは、女王になる個体各々の資質で変わ

つてくるから、何とも言えないのよね。」

「つまり、裏切らないとは言いながら、結果は保証できない、という事か」

「女王はどうとう、切り札を出してきたのね。」

後方の声に驚いて振り返ると、そこに身体からの発光を随分取めた麒麟と、あの謎の少女が立っていた。

チャンネルラが不敵な笑みを浮かべる。」

「来たね、トヨ。この日を待つていたよ。」

時は、名取高館の砦が陥落する手前に遡る。若は高衡が「三姉妹」と呼んだ三本の大ケヤキの作る輪の中心に進んでいた。何故か全く怖ろしくない。やはり阿古耶が憑いているからだろうか。

アンパンヌを起こそうというチャンネルラは、差し詰めそのような能力を持つ役回りなのかも知れない。」

「けれど、一旦新女王が目覚めればどうなるか。女王の力というのは、女王になる個体各々の資質で変わ

つてくるから、何とも言えないのよね。」

「つまり、裏切らないとは言いながら、結果は保証できない、という事か」

「女王はどうとう、切り札を出してきたのね。」

後方の声に驚いて振り返ると、そこに身体からの発光を随分取めた麒麟と、あの謎の少女が立っていた。

チャンネルラが不敵な笑みを浮かべる。」

「来たね、トヨ。この日を待つていたよ。」

時は、名取高館の砦が陥落する手前に遡る。若は高衡が「三姉妹」と呼んだ三本の大ケヤキの作る輪の中心に進んでいた。何故か全く怖ろしくない。やはり阿古耶が憑いているからだろうか。

「彼は消えていない。大きくなり過ぎて、見えないだけよ。けど彼らの生きる場所ではないから、じき戻

「えっ・誰？」

「この砦にもとイアンパヌだった身体が囚われているのよ。私らを裏切って、綾糟に女王の蜜を与えた。そして、自分も口にした。」

「なしてわかるんだ。」

「イアンパヌが子を宿したからよ。動かぬ証拠でしょ」

「本来は子供が作れない？」

「当然。子を成せるのは女王のみ。私ら三十人は侍。一心同体つて訳よ。」

本当に、蜂や蟻と同じ生態という訳か。それで、その人が起きたら、何がどうなるの？」

「わからない？子を成す個体の出現は、新たな女王の誕生という事よ。けれど通



奥羽現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

シリーズ 遠野の自然 「遠野の立春」 遠野 1000 景より



冬晴れの鳥居と祠

暦上では、二月四日は、春のスタートである「立春」となる。
全国的に雪が少ない異常な状態で明けた本年ではあったが、ようやく本来の季節に戻った。雪不足を嘆いていた全国のスキー場にもようやく雪が降った。
関東圏では、先月の予期せぬ雪で、交通は大混乱であった。雪国の人には、たかが数センチの雪で何をそんなに騒いでいるのか、驚

くほどのことでもあるまい、という声が聞こえてきそうだが、大げさすぎる大雪予報が、電車のダイヤを組み替えさせ、大幅に本数を減らした人的な影響が悪化したと言える。
おかげで、先月の十八日の筆者の朝の通勤時間は、なんと約九時間半という異常な長さとなってしまった。家を出たのが朝の五時半少し前、会社に到着したのが何と午後三時過ぎであった。

＊
そして遠野にも雪が降った。大雪のようである。本来の季節とは異なる天候のもとでは、何となく落ち着かず、フワフワした感じがあったが、これでピシツとした。
冬の遠野らしくない遠野から、本来の遠野に戻った。

＊
素朴な鳥居に雪が積もった景色も、本来の遠野に戻ってきた感じがする。
仙人池も凍り、突き出した枯れ枝が、何か他の生き物のようで異様な姿である。神社の境内、樹木の上にも大雪が降って、一面の雪景色。
小正月の十五日には、門松やしめ縄・古神札を焼却するどんと祭が行われ、燃え上がる火で身を清め、そ



大雪の日の狛犬



大雪の後

の炎で餅を焼いて食べ無病息災を祈念する。どんと祭の灰は持ち帰られ、火難除けに各家の門口に撒かれるという。
つららも、先月の写真よりもずっと力強く、太くなっている。



冬の仙人点景

遠野にももちろん地酒がある。この写真の地酒は、上閉伊酒造の「國華の薫」のようだ。筆者はまだいただいたことがない。いつか



遠野の地酒



つらら



炎

石巻に新しい復興の風を

若者が中心となって立ち上げたNPO法人が新しい手法で風力発電所開発に挑戦する！
-NPO法人STELAのプロジェクトのレポート5-



「栗城史多 x ボランティア」の登壇者とスタッフの写真

「ボランティアって何だね？」
「開始にこんな問いかけを頂いた。質問の主は貧しさのあまり学校に通えないカンボジアの子供達のために学校を建て、今は村の経済を立て直すために新たな産業を興しているNPO法人はちどりプロジェクトの代表を務める宮手恵氏だ。」

私にとってボランティアは10代から環境問題をテーマに様々な団体と関わってきたことからとても身近なものであり、取り留めて考えたこともなかった。
「私にとってはライフワークみたいなものです」
活動を通して出会いがあり、仲間が増え、忘れられない思い出も多い。現在の活動に関わって下さっている会員も元はこれまでのボランティア活動を通して出会ったのがほとんどである。

1月30日、都内でNPO法人はちどりプロジェクト主催によるイベントがあった。タイトルは「栗城史多 x ボランティア」今号ではこちらの報告を中心に紹介したい。

震災ボランティアへの思い

人間は誰かの為に動くときに限界以上の力を発揮できるといっても変わった動物である。

子供のため、家族のため、仲間のため、そして見ず知らずの誰かのため。

世界はどこかで誰かが苦しんでいることに胸を痛めること。それが革命家として最も美しい資質だと言ったのはキューバ革命の英雄チェ・ゲバラである。今回の震災があったとき、国内外問わず大勢のボランティアが私財と時間を投じて駆けつけて下さった。

私自身、壊滅した故郷で活動して下さっていたNPO法人オンザロードへ短期間のボランティアとして参加したとき。どれだけ心強く、そして沢山の勇氣をもたらしたか。

私にとつて彼らは紛れもなく心の美しい英雄である。時に夜を徹して下さった復興に尽力して下さったボランティアの皆様に心から感謝を送りたい。



宮城・東京のメンバーが集まってブースを展開。パンフレット、各資料の配布と入会希望者の対応を行った。



このプロジェクトを始めるに至ったきっかけと経過、震災ボランティアへの感謝と思いについて講演させて頂いた。

一歩を超える勇氣

栗城史多氏は7大陸の最高峰を単独無酸素で登頂し、その様子をインターネットを通じて、命がけの冒険を多くの人と共有することで世界から否定という壁をなくし、何かに挑戦する全ての人に一歩を超える勇氣を持って欲しいという思いで自身が9本の指を失っても尚、登山活動を行っている。

主催の宮手氏は栗城氏の講演をきっかけに今の活動に踏み出す勇氣をもらったという。
今回ははちどりプロジェクトを含めた4団体が登壇し、それぞれの思いについてスピーチをした。

電気のないカンボジアの農村に映画を届け、子供に夢を持ってもらいたいと言っているのはNPO法人CATICの教養石小織氏。夢アワードで優勝し、先日カンボジアでの映画動員が六千人を突破するなど精力的に活動されている。

昨年ネパールで大地震が起き、大きな被害が出たのは記憶に新しい。現地でゲストハウスを営んでいた水出正氏が立ち上げたOTESTUDAI JAPANは同国のラムチエ村において震災直後から復興活動にあたり、物資や食料、医薬品などを届けた。

登壇されたいずれの団体も現在も活動を続けられ、それぞれの思い描く、ゴールに向かって動き続けている。

興味があれば是非ともインターネット検索等していただけたら幸いである。我々の団体も貴重な時間を頂き、大勢の来場者の前で活動について紹介させて頂いた。

今回は団体ごとにブースを出展させて頂ける事になり、駆けつけてくれた宮城東京メンバーの協力で活動を紹介します。資料の配布と新入会の受付を行った。

イベントを通じて寄付金を頂き、会員も増え大変有意義な機会となった。世界は大小様々な問題を抱えている。東北で言えば震災からの復興が最たるものであるがそれも活動する団体や個人は多くあり、その活動のフィールドは多岐に及んでいる。

社会問題や震災などにより一度に多くのものを失い、それでも希望を見出し、一歩を踏み出すことは容易ではない。それぞれに異なるバックグラウンドがあったとしても互いに尊重し合い、時に協力し、励ましあおう。

登壇者だけが特別ではない、スポットライトの下に一見華々しく見えてもそれぞれがその時にできることを踏み出しただけなのだ。

はちどりプロジェクトはクリキンディという一羽のハチドリが森の火事という一大事の中でくちばしに水を含んで消火のために森を行き来したというインディアンの伝説に由来する。人は微力だが無力ではない。

我々も震災から立ち上がる一羽のハチドリでいたいと思う。

競争ではなく共に手を取っていく
1月17日に今年第1回のミーティングが本部のある仙台にて行われた。今後大きく踏み出していくにあたってメンバーの動きと広報用コンテンツの作成、理事長による市民出資の仕組みのプレゼン、予定しているイベント紹介等が主な議題となった。

また今回はエネシフみやぎなど県内の様々な市民組織で活躍されている砂子啓子氏をお招きして関わっていらつしやる活動の紹介をしていただき、団体間の関わりを今後深めて行こうという試みが行われた。競争ではなく協調で。今後も様々な個人や団体と協力しながら各々の理想とする世界を目指して生きたい。

来月号の記事
2月14日に東北農民管弦楽団の第三回定期演奏会が仙台にて行われる。宮澤賢治の農民芸術概論の理念に共感した東北の心ある農家さんによる楽団である。当日は有機野菜や三陸の海産物の直売が行われ、我々もイベントに微力ながら協力させて頂いている。

寄稿者プロフィール

東梅祐也
(とうばいゆうや)
石巻市出身。
エンジニアを志し、石巻工業高校電気科、東北学院大学大学院にて修士号を取得。現場での仕事に従事するために博士課程を中退する。

幼い頃から動物が好きで、将来は環境問題の解決に貢献できる仕事につきたかったが、徹底した現場人間のため、大学院時代に社会問題の現場を肌で感じるために環境問題・戦争・貧困をテーマに地球一周の一人旅へ。帰国後は反原発、植林、ゴミ拾い、反戦デモにチ

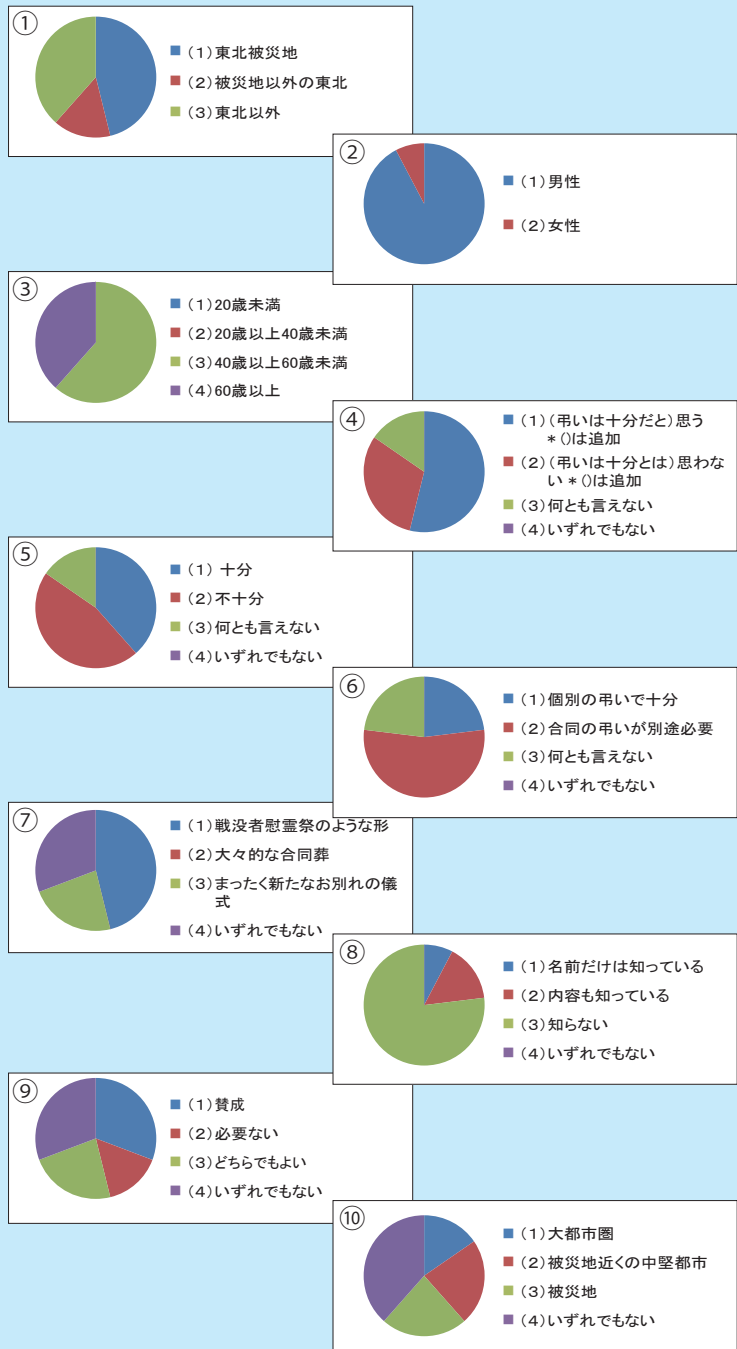


ヤリテイサンタ、自身の旅のトークライブなど様々な活動を行う。その後風力発電専門のエンジニアとなり、主にメンテナンスに従事。東日本大震災を機にエンジニアを退職してからは宮城に戻り現法人設立。現在は理事として活動している。
発電所の管理に必要な電気主任技術者の有資格者でもある。

第44号 ネットアンケート集計結果

【大震災犠牲者たちとの「別れ」について】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	6
	(2) 被災地以外の東北	2
②	性別	
	(1) 男性	12
	(2) 女性	1
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	0
	(3) 40歳以上60歳未満	8
④	大震災からの新たな出発と弔いの関係	
	(1) (弔いは十分だと)思う*()は追加	7
	(2) (弔いは十分とは)思わない*()は追加	4
	(3) 何とも言えない	2
⑤	犠牲者の葬儀だけで十分か	
	(1) 十分	5
	(2) 不十分	6
	(3) 何とも言えない	2
⑥	大量の犠牲者と弔いの形	
	(1) 個別の弔いで十分	3
	(2) 合同の弔いが別途必要	7
	(3) 何とも言えない	3
⑦	葬儀以外の「お別れ」とは?	
	(1) 戦没者慰霊祭のような形	6
	(2) 大々的な合同葬	0
	(3) まったく新たなお別れの儀式	3
⑧	遠野物語 99 話を知っているか?	
	(1) 名前だけは知っている	1
	(2) 内容も知っている	2
	(3) 知らない	10
⑨	遠野物語 99 話を創作能にすることについて	
	(1) 賛成	4
	(2) 必要ない	2
	(3) どちらでもよい	3
⑩	遠野物語 99 話創作能を演じる場所	
	(1) 大都市圏	2
	(2) 被災地近くの中堅都市	3
	(3) 被災地	3
	(4) いずれでもない	5



今回は「大震災犠牲者たちとの「別れ」について」。来月三月で満五年になる。筆者は直接の被害者でもなく、身内に犠牲者が出た訳でもないが、あの時の映像に接するたび、無念の思いで亡くなったといった犠牲者の方々にどう追悼すればいいのか、未だに答えを見出せない。五年の節目でぜひ他の人にも聞いてみたかった。回答者数は十三名。

「大震災からの新たな出発と弔いの関係」は「(弔いは十分だと)思う」が約53.8%、「(弔いは十分とは)思わない」が約30.8%。「犠牲者の葬儀だけで十分か」は「十分」が約46.2%、「十分」が約38.5%で拮抗。

「大量の犠牲者と弔いの形」は「合同の弔いが別途必要」が約53.8%、「個別の弔いで十分」が約23.1%。「葬儀以外の「お別れ」とは?」は「戦没者慰霊祭のような形」が約46.2%、「まったく新たなお別れの儀式」が約23.1%。「遠野物語99話を知っているか?」は「知らない」が約76.9%、「内容も知っている」はわずか約15.4%。「遠野物語99話を創作能にすることについて」は意見が割れ、「賛成」は約30.8%。「遠野物語99話を創作能を演じる場所」も同様に意見が割れ、分散した。

満五年が経とうとしているが、多くの犠牲者の方々に追悼する手法はまだまとまっていないと見えた。

編集後記

昨年秋から体調芳しくなく、三陸取材に出かけられず、年明けにはぜひ行こうと考えていた。

そこで、ずいぶん久しぶりに、気仙沼から三陸沿岸部を北上し、大船渡、釜石、可能ならば宮古まで行こうと、切符も宿も予約して準備万端と思っていた矢先、全国的な大雪注意報が出て、取材を断念した。

ところが、予報は大はずれ、大雪ではなく普通の雪しかし、その予報に過敏に反応した関東圏のJRその他私鉄各社は、本数を減らし、間引き運転。それで東京圏は大混乱となった。

筆者も朝の通勤に約九時間半もかかるという有様。最近の日本は少しおかし。適度なバランス感覚を失っているように感じるのは筆者だけだろうか。

過敏すぎるほどに反応する分野があると思うと、他方、誰も、何も予報も警告も発しない分野もある。

地震と津波といえはすぐ南海トラフ大地震と津波と騒ぎ立てていたが、実際に頻発しているのは、関東東部、北海道・東北、鹿児島島の島しょ部。

火山噴火も同様。富士山ばかり懸念されているが、桜島も大噴火した。

日本は全国的に自然災害の多い国であることを再度思い出し、抜かりなく日頃の準備をして欲しいものだ。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先
(郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タプロイド新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと思ひます。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています